

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ライフエナジーチェェコロリ			
○保護者評価実施期間	令和7年1月14日		～	令和7年2月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	10名
○従業者評価実施期間	令和7年1月14日		～	令和7年2月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月21日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種による一人一人に合わせた手厚い支援が出来るている。	利用児童人数に合わせて十分な職員配置が出来るようにしている。また、支援内容が固定化しない様に日々活動内容を変え、様々な経験を提供できるようにしている。	質の高い支援の提供が出来るよう、個々のスキルを高める研修を取り入れる。また、経験豊富なスタッフや専門職員とコミュニケーションを取りながら日々の支援を見直していく。
2	季節の行事や制作、様々なトレーニングを取り入れ、楽しい支援を行える。	それぞれの活動に計画を立て、楽しいだけでなく目的等を明確にすることで利用者に合った支援が提供できるよう配慮している。過去の活動内容と重複することが無いように、いつ・何をを行ったのか記録するようにしている。	ホームページの更新回数を増やし、支援内容が保護者にも適宜伝わるようにしていく。
3	保育所やこども園等との連携が取れている。	園への送迎者がほとんどのため、園での最新の情報や事業所での様子など情報共有が取りやすい。	保育所等から事業所見学の受け入れや、事業所での支援方法を提供しながら、連携を図り、支援の方向性を充実させる。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員間での情報共有が不十分なことがある。	日により出勤職員が異なるため、情報が行き届いていないことがある。	全ての職員に情報伝達出来るように、声かけや確認を習慣化する。
2	戸外活動の機会が少なくなってしまう。	個々に合わせた支援を考え屋内活動が優先されるため、戸外活動を行う機会が少なくなってしまう。	屋内活動でも子供たちが楽しさや充実感を感じられるように、机上や運動など様々な体験が提供できる支援内容にしていく。機会を設けて戸外活動も定期的に入れていく。
3			